

2020

国際ITビジネス科 シラバス



学校法人京都中央学院

〈専〉YIC京都工科自動車大学校

シラバスとは

シラバスとは講義概要であり授業全体の計画書のことです。授業の目標・内容・参考図書・成績評価の方法などが記され、皆さんが授業内や授業外で学修を行うための指針を示すものです。

教員は、この指針に従って授業を行うことになります。したがってシラバスは授業計画を学生と教員との間で共有する、「契約書」に近い位置づけのものです。シラバスに記載された目標を達成するために、教員は授業を通して学生である皆さんに知識と技術を習得させる義務を負います。逆に皆さんは授業に出席する義務を負うことになります。

また広い意味では、本校が地域社会に対して本校の教育の質を担保するものでもあります。

実際に授業が行われるにあたって、学生や教員があらかじめ準備したり、従うべき事項等を共有する文書となります。授業で行われる内容があらかじめ記載されていますので、学生は授業に臨む際に前もって準備を行うことができますし、記載されている評価方法に向けての学修などを行うこともできます。

シラバスを作成する過程で、教員が自らの行う授業の内容、評価方法などの具体的構造を見直すことができ、自分の授業を見直す良い機会になります。

皆さんは、このシラバスを活用して、悔いのない学生生活を送っていただくようお願いします。

別表2

国際ITビジネス科 教育課程

区 分		科 目 名	単位数	時間数
I T 科 目 (理 論・実 習)	必 須	I T リ テ ラ シ ー	4	120
		I T 応 用	4	120
		C A D 演 習	2	60
	小 計		10	300
ビジネス科目	必 須	ビ ジ ネ ス 日 本 語 基 礎	5	150
		ビ ジ ネ ス 日 本 語 応 用	5	150
		上 級 読 解	2	60
		上 級 聴 解	2	60
		日 本 語 表 記 (語 彙)	2	60
		日 本 語 表 記 (漢 字)	2	60
	小 計		18	540
一般教養科目	必 須	ビ ジ ネ ス マ ナ ー	1	30
		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 法	2	60
	小 計		3	90
合 計			31	930

科目名	ITリテラシー	単位数	4	学科	国際ITビジネス科			
授業形態	実習	対象学生		開設期	通期			
区分	必須	開設時期	通期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	パソコン、スマートフォンなどの情報機器に関する基本理解							
授業の一般目標	パソコンの基本的な仕組みを知り、セキュリティやネットワーク構築などのパソコンを扱う際の基本的な知識を身につける。							
受講条件								
事前学習について(テキスト・参考書等)	留学生のためのITリテラシー							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	コンピューターに関する基本的な知識を身につける							
☐ 思考・判断の観点	ITのさまざまな情報を得ることにより、適切に業界でやりたいものを学べる。							
☐ 関心・意欲の観点	今後IT系の専門学校に進学する際に自身がどの分野に興味をもっているのかを探ることができる							
☐ 態度の観点	ITへの興味を持ち、積極的に情報収集に取り組むようにする							
☐ 技能・表現の観点	IT言語を身につけ、発生した事案に対して適切な処置が取れるようになる。							
授業計画（全体）								
IT知識を学ぶとともに、資料作成を通じて日本語のアウトプットをすることにより語学力の向上にもつなげる。								
授業計画（授業単位）								
回	主題	授業内容			備考			
1～5	ハードウェアとソフトウェア							
6～10	データベース							
11～19	ネットワーク							
20～28	セキュリティ							
29～33	情報システム							
34～38	マルチメディアとヒューマンインターフェース							
39～45	プロジェクトマネジメント							
46～51	サービスマネジメント							
52～58	システム戦略							
59	インターネットと情報モラル							
60	知的財産権							
成績評価方法								
(1)単元ごとに確認テストを課す。								
(2)長期休暇で宿題を課す。								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○		○			80%	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点～70点
授業態度								可 (D):69点～60点
発表・作品	○		○		◎		20%	不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	吉野 正巳			実務経験紹介				

科目名	ITリテラシー		単位数	4	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	実習		対象学生		開設期	通期		
区分	必須		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	・Windowsの基本操作 ・Word、Excel、PowerPoint、情報倫理の勉強							
授業の一般目標	日本の会社や大学で、日本語を使用して資料が作れるようになる。							
受講条件								
事前学習について（テキスト・参考書等）	30時間でマスターWord＆Excel 2010 留学生のためのパソコン入門 文字入力練習用文章プリント							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	基本的なOSソフトを使用して何ができるのかを知る							
☐ 思考・判断の観点	積極的にソフトを日常的に活用して日々の改善にあてられるようにする							
☐ 関心・意欲の観点	ビジネススキルを身につけることで勤務意欲を刺激する							
☐ 態度の観点	知識の収集に対して積極的になる							
☐ 技能・表現の観点	必要な場面に応じて、必要な資料を作成できるようにする。							
授業計画（全体）								
IT知識を学ぶとともに、資料作成を通じて日本語のアウトプットをすることにより語学力の向上にもつなげる。								
授業計画（授業単位）								
回	主題	授業内容			備考			
1～5	Windowsの基礎							
6～10	Wordの基礎							
11～19	Word活用							
20～28	Excel基礎							
29～33	表作成							
34～38	グラフの作成							
39～45	Excel応用							
46～51	PowerPoint基礎							
52～58	PowerPoint応用							
59	インターネットと情報モラル							
60	知的財産権							
成績評価方法								
(1)単元ごとに確認テストを課す。								
(2)長期休暇で宿題を課す。								
(3)期末に定期試験を課す。								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○			◎		80%	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	○	○			20%	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点～70点
授業態度								可 (D):69点～60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	小島 敬子			実務経験紹介	ホームページアドレス			

科目名	CAD演習		単位数	2	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	実習		対象学生		開設期	通期		
区分	必須		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	CADソフトによる部品図及び組立図の製図を行うことにより、その操作方法を習得する							
授業の一般目標	[1] CAD利用の概念が説明できる。 [2] 2次元CADの操作および作図ができる。 [3] 図面に寸法公差、幾何学公差、表面性状の表記ができる。 [4] 機械部品の簡略図を描くことができる。 [5] 指定された時間内で作図ができる。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	これからはじめるAutoCADの本(AUとCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版)							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	機械製図の知識を習得							
☐ 思考・判断の観点	製図法を理解し作成できる。							
☐ 関心・意欲の観点	製品の設計を理解する。							
☐ 態度の観点	日常生活で使用する物に対するモノづくりを考える。							
☐ 技能・表現の観点	図面の正面図、平面図、側面図、寸法の説明ができる。							
授業計画(全体)								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	手書き製図							
第2回	コマンドの基本操作							
第3回	コマンドの基本操作							
第4回	コマンドの基本操作							
第5回	いろいろな図形を作図							
第6回	いろいろな図形を作図							
第7回	いろいろな図形を作図							
第8回	図形を修正							
第9回	図形を修正							
第10回	図形を修正							
第11回	種類別に作図							
第12回	種類別に作図							
第13回	種類別に作図							
第14回	文字記入							
第15回	文字記入							
第16回	寸法記入							
第17回	寸法記入							
第18回	寸法記入							
第19回	図面(現尺1:1の図面)を作成							
第20回	図面(現尺1:2の図面)を作成							
第21回	図面(現尺1:3の図面)を作成							
第22回	図面(現尺1:4の図面)を作成							
第23回	図面(現尺1:5の図面)を作成							
第24回	図面(現尺1:6の図面)を作成							
第25回	図面(縮尺1:20の図面)を作成							
第26回	図面(縮尺1:21の図面)を作成							
第27回	図面(縮尺1:22の図面)を作成							
第28回	図面(縮尺1:23の図面)を作成							
第29回	図面(縮尺1:24の図面)を作成							
第30回	図面(縮尺1:25の図面)を作成							
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率80%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀(S):100点～90点
小テスト								優(A):89点～80点
宿題授業外レポート								良(B):79点～70点
授業態度								可(D):69点～60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	井上 浩伸			実務経験紹介				

科目名	ビジネス日本語基礎 I	単位数	5	学科	国際ITビジネス科			
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必須	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	2020年度の日本語能力試験N2に合格するためのインプット知識を導入、定着させる。 【授業内容】文法、文字語彙、聴解、読解							
授業の一般目標	文法中心の日本語の四技能の向上をバランスよく伸ばすとともに、今後日本社会で働く素地となる日本に関するN2相当の基礎知識を身につけていく。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	『TRY！N2 日本語能力試験』(アスク出版)							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	日常生活に必要な日本語文法の知識を身につける							
□ 思考・判断の観点	会話やスピーチ、読解に自然になじみ、日本語能力試験へのスムーズな対応を目指す。							
□ 関心・意欲の観点	日常生活に基づき、即アウトプットできる内容を学ぶことにより長期的な学習への関心・意欲を保持させる。							
□ 態度の観点	日常生活で出会う場面で学んだ新たな文法を積極的に使用する心構えを身につける							
□ 技能・表現の観点	ただ伝える以上に、よりの確で、表現豊かに意思伝達ができるようにする。							
授業計画(全体)								
文法メインのテキストだが、テキストを通じて語彙を導入し、読解、聴解の演習を行い、さらに課に応じたロールプレイを実施することで飽きることなく4技能すべてを向上させていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
1～5	1. スタッフ募集のお知らせ							
6～13	2. 転任のあいさつ							
14～18	3. ホテルの仕事							
19～23	4. 台風情報							
24～30	5. 就職活動							
31～37	6. 苦労した5年間							
38～45	7. オオカミと生態系							
46～48	8. 取引先で							
53～58	10. 満員電車							
59～62	11. ラーメンの紹介							
63～66	12. ウォーキングシューズの開発							
67～71	13. 人生の転機							
72～75	14. オリンピックの開催について							
成績評価方法								
(1)各授業において例文を作成させる。その量により授業態度の判断とする。								
(2)最後の授業に期末試験を実施する。								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70%	S(4):90点以上
小テスト								S(4):91点以上
宿題授業外レポート								S(4):92点以上
授業態度				○			30%	S(4):93点以上
発表・作品								S(4):94点以上
演習								S(4):95点以上
出席								S(4):96点以上
担当教員	川寄洋一			実務経験紹介				

科目名	ビジネス日本語応用	単位数	5	学科	国際ITビジネス科			
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必須	開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	内容重視の言語教育をしながら、上級学習者の日本語の力をさらに伸ばす							
授業の一般目標	ケースメソッドにより、分析能力や批判力を養うと同時に、コミュニケーションスキルの向上、日本語のプロフィシエンシーの向上をねらう。							
受講条件								
事前学習について(テキスト・参考書等)	『TRY！N1 日本語能力試験』(アスク出版)							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	実在の企業活動を学びながら、中級以上の日本語知識を入れ、運用力も向上させる。							
☐ 思考・判断の観点	ディスカッションを通じ、分析能力や批判力を養う							
☐ 関心・意欲の観点	最新情報を生教材などで学ぶことにより実生活との繋がりをを感じさせ意欲を持続させる。							
☐ 態度の観点	ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じ、学生が主体的に発言できるようにする							
☐ 技能・表現の観点	運用力を高めることで、アウトプット時の使用語彙、文章構成力、表現方法を拡げる。							
授業計画(全体)								
文法メインのテキストだが、テキストを通じて語彙を導入し、読解、聴解の演習を行い、さらに課に応じたロールプレイを実施することで飽きることなく4技能すべてを向上させていく。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
1～4	1. ニュースを読む							
5～9	2. 産業医を増やそう							
10～20	3. 飯食わぬ女房							
21～27	4. 上司との付き合い方							
28～39	5. 転職							
40～44	6. 研修を終えて							
45～54	7. さすが本田君							
55～64	8. 楽園の萌花							
65～67	9. トリアージ							
68～74	10. 前衛書道							
75	総復習							
授業計画(授業単位)								
成績評価方法								
(1)各授業後宿題を課す								
(2)長期休暇において宿題を提出させる。								
(3)最後に試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準	成績評価基準
定期試験	◎			◎		80%		秀 (S):100点～90点
小テスト								優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		○	○	○		20%		良 (B):79点～70点
授業態度								可 (D):69点～60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	川崎 洋一			実務経験紹介				

科目名	上級読解	単位数	2	学科	国際ITビジネス科			
授業形態	講義	対象学生	1年生	開設期	通期			
区分	必須	開設時期	通期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	JLPTの模擬試験を繰り返すことにより、上級レベルの試験に合格できる聴解力を身につける。							
授業の一般目標	一問一問を丁寧に解く授業をすることで「なんとなく」やテクニックで解答するのではなく、しっかり身につけ日常生活にも応用できる読解力を身につける。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 聴解／読解 (UNICOM Inc.) ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 聴解／読解 (UNICOM Inc.)							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	N2、N1に合格できる語彙、文法力を読解を通して身につける。							
□ 思考・判断の観点	文章の流れ、構成などから答えを推察できるようにする。							
□ 関心・意欲の観点	JLPTに直結する問題形式で、日々自己のレベルが図れるようにする。							
□ 態度の観点	聴解授業ではあるが、積極的に発話をさせ主体性を評価する。							
□ 技能・表現の観点	選択性の解答を絞れる技術を身につける。							
授業計画(全体)								
実際のJLPTの問題に触れることで、問題の傾向、出題形式、時間配分に慣れる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
1～3	N2 内容理解・短文							
4～6	N2 内容理解・中文							
7～9	N2 統合理解							
10～12	N2 主張理解							
13～15	N2 情報検索							
16～18	N1 内容理解・短文							
19～21	N1 内容理解・中文							
22～24	N1 統合理解							
25～27	N1 主張理解							
28～30	N1 情報検索							
授業計画(授業単位)								
成績評価方法								
(1)週末に宿題を課す								
(2)長期休暇に宿題を課す								
(3)期末に定期試験を課す								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○			○		80%	秀 (S):100点～90点
小テスト								優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート			○	○			20%	良 (B):79点～70点
授業態度								可 (D):69点～60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	横山 あかり			実務経験紹介				

科目名	上級聴解	単位数	2	学科	国際ITビジネス科			
授業形態	講義	対象学生		開設期	通期			
区分	必須	開設時期	通期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	JLPTの模擬試験を繰り返すことにより、上級レベルの試験に合格できる聴解力を身につける。							
授業の一般目標	一問一問を丁寧に解く授業をすることで「なんとなく」やテクニックで解答するのではなく、しっかり身につく日常生活にも応用できる聴解力を身につける。							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	ドリル&ドリル 日本語能力試験 N2 聴解／読解(UNICOM Inc.) ドリル&ドリル 日本語能力試験 N1 聴解／読解(UNICOM Inc.)							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点：	N2、N1に合格できる語彙、文法力を聴解を通して身につける。							
☐ 思考・判断の観点：	会話の流れ、ニュアンスなどから答えを推察できるようにする。							
☐ 関心・意欲の観点：	JLPTに直結する問題形式で、日々自己のレベルが図れるようにする。							
☐ 態度の観点：	聴解授業ではあるが、積極的に発話をさせ主体性を評価する。							
☐ 技能・表現の観点：	選択性の解答を絞れる技術を身につける。							
授業計画(全体)								
実際のJLPTの問題に触れることで、問題の傾向、出題形式、時間配分に慣れる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
1～3	N2 課題理解							
4～6	N2 ポイント理解							
7～9	N2 概要理解							
10～12	N2 即時応答							
13～15	N2 統合理解							
16～18	N1 課題理解							
19～21	N1 ポイント理解							
22～24	N1 概要理解							
25～27	N1 即時応答							
28～30	N1 統合理解							
授業計画(授業単位)								
成績評価方法								
(1)週末に宿題を課す								
(2)長期休暇に宿題を課す								
(3)期末に定期試験を課す								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○			○		80%	秀 (S):100点～90点
小テスト								優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート			○	○			20%	良 (B):79点～70点
授業態度								可 (D):69点～60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	齊藤 麻紀			実務経験紹介				

科目名	日本語表記・語彙	単位数	2	学科	国際ITビジネス科			
授業形態	講義	対象学生		開設期	通期			
区分	必須	開設時期	通期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	日本語能力検定試験N2に確実に合格できる語彙力を身に着ける							
授業の一般目標	語彙力を強化するとともに、その語彙を正しい場面、正しい文法で使用方法ができるようにする。							
受講条件								
事前学習について（テキスト・参考書等）	日本語能力試験対策 日本語総まとめN2 語彙（アスク出版） 日本語能力試験対策 日本語総まとめN1 語彙（アスク出版）							
授業の到達目標								
☐ 知識・理解の観点	N2に十分合格できる語彙力、さらにN1を狙えるだけの語彙力をつける							
☐ 思考・判断の観点	語彙を理解することにより日常生活での困難を減らし、場面に応じた適切な対応ができるようになる。							
☐ 関心・意欲の観点	語彙を使用できる日常的な場面を多く提供し、実際使用させることで日々の生活においても学習意欲が湧くようにする							
☐ 態度の観点	毎授業の語彙テスト、課題に取り組みせ、能動的な学習姿勢を身に着ける							
☐ 技能・表現の観点	わかるだけでなく、適切な語彙の使用ができるようにする							
授業計画（全体）								
JLPTに出題される語彙を暗記して試験の対策力をあげるだけでなく、授業では例文作成や会話をし飽きが出ないよう工夫する。								
授業計画（授業単位）								
回	主題	授業内容			備考			
1～3	1. 楽しく暮らしていますか	日常の語彙						
4～7	2. 仕事は順調ですか	仕事の語彙						
8～10	3. いろいろ表現しましょう	物の形容の語彙						
11～14	4. 副詞をたっぷり覚えましょう	副詞						
15～18	5. やさしい漢字で書きますが	日常の漢字語彙						
19～22	6. まとめて覚えましょう	カタカナ						
23～25	7. まとめて覚えましょう②							
26～30	8. まとめて覚えましょう③							
成績評価方法								
(1)定期試験、語彙・漢字での評価								
(2)毎回の授業で前回学習分の小テストを行う								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	○		◎			秀 (S):100点～90点
小テスト	○		○	◎	○			優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点～70点
授業態度								可 (D):69点～60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	横山 あかり			実務経験紹介				

科目名	日本語表記・漢字	単位数	2	学科	国際ITビジネス科			
授業形態	講義	対象学生		開設期	半期			
区分	必須	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)								
日本語能力検定試験N2に確実に合格できるだけ漢字知識を身に付ける								
授業の一般目標		漢字の読み、正しい漢字の選択ができるだけでなく、その漢字を使った語彙も覚えることで語彙力の増加を目指し、またその語彙を使った例文作成を手書きでさせることにより適切な語彙使用と、漢字の正しい表記ができるようにする。						
受講条件								
事前学習について（テキスト・参考書等）		日本語能力試験対策 日本語総まとめ 漢字 N2（アスク出版） 日本語能力試験対策 日本語総まとめ 漢字 N1（アスク出版）						
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点		正しい漢字の音訓の読みを理解できるようにする。						
□ 思考・判断の観点		漢字を学ぶことにより、日常生活の様々な場面で困らないようにする。						
□ 関心・意欲の観点		漢字の理解が読解力の向上につながり、自己成長を感じることで学習意欲を向上させる。						
□ 態度の観点		漢字を理解することで、特に読解問題への積極的な学習態度を身に付ける。						
□ 技能・表現の観点		正しく適切に表記し、平仮名ばかりの読みにくい文章にならないようにする。						
授業計画（全体）								
JLPTに出題される語彙を暗記して試験の対策力をあげるだけでなく、授業では例文作成や会話を行い飽きが出ないよう工夫する。								
授業計画（授業単位）								
回	主題	授業内容			備考			
1～3	日常生活で表示されている漢字							
4～7	機器に使われる漢字							
7～14	手紙・メール・文書に使われる漢字							
15～17	家庭用品に使われる漢字							
18～22	商品等に使われる漢字							
23～29	ニュースや論文で使われる漢字							
30	総合復習							
成績評価方法								
(1)定期試験、語彙・漢字での評価								
(2)毎回の授業で前回学習分の小テストを行う								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	○		◎			秀 (S):100点～90点
小テスト	○		○	◎	○			優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート								良 (B):79点～70点
授業態度								可 (D):69点～60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	川崎 洋一			実務経験紹介				

科目名	ビジネス・マナー		単位数	1	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	講義		対象学生	1年次	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	-		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	接客対応の基礎 『心づかい』『言葉づかい』などの実務知識を覚える。 基本的な接客マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。							
授業の一般目標	サービス接客検定3級合格							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	サービス接客検定 受験ガイド3級 改訂版、サービス接客検定 問題集							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点	1. サービス接客とは何かについて、接客業を上手く熟するための課題が説明ができる。							
□ 思考・判断の観点	1. 授業で取り上げた各領域についての内容を、活用することができる。							
□ 関心・意欲の観点	1. サービス接客に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
□ 態度の観点	1. ペット業界(接客業)の中で、サービス接客の必要性を考えることができる。							
□ 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、サービス業であるペット業界(他分野職含む)へ就職した時、顧客に対して実践ができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備考			
第 1 回	授業開始について サービス接客接客とは何か	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 サービスの意味、接客とは何かを覚える 効果的な自己紹介の仕方ができる						
第 2 回	サービススタッフの資質(1)	必要とされる要件 明るさと誠実さ・適切な判断と表現・身だしなみについてを覚える						
第 3 回	サービススタッフの資質(2)	従業員要件 良識をもつ、適切な判断と表現、清潔感についてを覚える						
第 4 回	専門知識(1)	サービス知識 サービスの意義・機能・種類を覚える						
第 5 回	専門知識(2)	従業員知識 商業用語・経済用語を覚える						
第 6 回	一般知識	社会常識を覚える、時事問題を知る						
第 7 回	対人技能(1)	一般的な人間関係を築く						
第 8 回	対人技能(2)	接客知識、対人心理が理解できる 接客者としてマナーを心得る						
第 9 回	対人技能(3)	話し方、接客用語を覚える 提示・説明の仕方を覚える						
第 10 回	対人技能(4)	服装 接客者としての適切な服装を装う						
第 11 回	実務技能(1)	問題処理。環境整備についてを覚える						
第 12 回	実務技能(2)	金品管理・社交儀礼の業務ができる						
第 13 回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習			試験範囲説明			
第 14 回	振り返り授業・試験実施	サービス接客検定合格のポイント、受験			単位認定試験			
第 15 回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説			試験解説			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点～90点
小テスト	○	○	◎				20	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点～70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	金森 孝子			実務経験紹介				

科目名	コミュニケーション技法		単位数	1	学科	国際ITビジネス科		
授業形態	講義		対象学生		開設期	通期		
区分	必須		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	IT業務遂行上想定される場面对し、適切に対応できる日本語運用能力を身につける。							
授業の一般目標	1. 日本での就職活動を遂行できるようにする 1. 各業務場面で適切に対応できるようにする 1. 仕様書を読めるようになる							
受講条件								
事前学習について (テキスト・参考書等)	「しごとの日本語 IT業務編」(アルク 村上吉文著)							
授業の到達目標								
□ 知識・理解の観点：	IT業界の語彙を覚え、適切に使用できるようにする							
□ 思考・判断の観点：	各場面において適切な言動の選択ができるようにする							
□ 関心・意欲の観点：	自身の将来像を具体的にイメージできる教材の使用により、日本語とITの知識意欲を刺激する。							
□ 態度の観点：	日本で働くとはどういうことを学び、日ごろのアルバイトから勤務態度を改善していく。							
□ 技能・表現の観点：	適切な語彙と文法の選択により日本人とのコミュニケーションをスムーズに行う。							
授業計画（全体）								
ビジネスの各場面において知識の導入後ロールプレイを行い、適切な日本語の運用を学び、語学力の向上につなげる。								
授業計画（授業単位）								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	仕事に取り組む心構え							
第2回	仕事の進め方							
第3回	職場のルール							
第4回	基本動作							
第5回	言葉遣いの基本①							
第6回	言葉遣いの基本②							
第7回	言葉遣いの基本③							
第8回	電話応対①							
第9回	電話応対②							
第10回	電話応対③							
第11回	来客応対①							
第12回	来客応対②							
第13回	訪問のマナー							
第14回	交際業務							
第15回	まとめと総括							
成績評価方法								
(1)期末試験においてテストを課す								
(2)長期休暇においてレポート課題を課す								
単位認定:出席率80%以上 期末試験60点以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	◎	◎		90%	秀 (S):100点～90点
小テスト								優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート			○				10%	良 (B):79点～70点
授業態度			○					可 (D):69点～60点
発表・作品								不可(E):59点以下
演習								
出席								
担当教員	池田 希			実務経験紹介				

2020 国際 ITビジネス科 シラバス

発 行 〈専〉YIC京都工科自動車大学校

発行日 2020年 4月 1日

編 集 学校法人京都中央学院

〒600-8236 京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町 27 番地

TEL 075-371-4044 FAX 075-343-3821

本便覧の複写および無断転載を禁ずる。